校長室だより～燦燦～ №９７３

６０

2024.2.15

今まで自分の年齢など、さほど気にせずに生きてきた。ところが、今年になってからは、自分の中に変化が生じてきた。テレビを見ていると、（　）書きで、その人の年齢が出てくる。自分と同い年か、一つしか違わないのか。そんなことを考えるようになった。

人は、男女を問わず４０を過ぎると、見た目では年齢がよくわからなくなる。人は、互いに年齢を気にする。年齢を知りたがる。生徒もそうである。何の遠慮もなく、年齢を聞いてくる。テレビを見ていると、年配の方に、必ずといっていいほど年齢を聞いている。年齢は、その人を表す一つの指標のようなものなのか。

６０という数字は、一つの区切りであることは間違いない。高齢者へのパスポートをもらったようなものである。だが、まだまだ元気である。体も動く。ここからの人生が大切である。もしかしたら、今までの人生にも増して重要なのかもしれない。そんな気がしている。何か新しいことを始めたほうがよい。今までの経験やキャリアにしがみつかないほうがよい。

では、どうするか。やりたいことはないのか。残念ながら、特にない。ところが、意識はしてこなかったが、ある方向へ導かれるように事が進んでいく。“ものかき”になりたいと思うようになった。作家ではない。文筆家というほどでもない。かっこつければ、エッセイストである。素人、アマチュアのものかきである。

４年以上にわたり、毎日のように文章を書いてきた。そうしようと決めていたわけではない。そうしたいと思っていたわけでもない。成り行きである。結果的にこうなった。学級担任をしているときも、毎日、学級通信で文章を書いていた。どうやら、昔から文章を書いていたいという思いがあるのは事実である。これが、人によっては、絵画だったり、音楽だったりするのだろう。

小説を書きたいわけでない。つれづれなるままに、気の向くままに、思いを綴るというのがよい。これが、自分には合っている。書かなければならない。そんなことを思うと、急に文章が浮かんでこなくなる。このへんがアマチュアである。きっと、プロの方は違うのだろう。アマとプロの覚悟の違いか。

この３月で、「校長室だより～燦燦～」は終わる。４月からの構想はできている。うまくいくかはわからない。途中で挫折するかもしれない。プロではないのだから、気楽に楽しく書いていきたい。そのほうが、内容がよくなるだろう。

６０という人生の節目を迎え、ようやく自分は何をしたいのか、自分にできることは何か。少しだけ見えてきた。ものかきには、読者が必要である。相手があっての文章である。そのことは、これからも大切にしていきたい。